安全管理室だより 10がつ

vol. 105.

～患者さんの安全のために、私たちができること～

転倒・転落防止

みんなで防ごう！

転倒・転落は
いつでも・どこでも・
誰にでも起こります！
一人ひとりの意識と
行動が大切です！



小さな気づきが
大きな事故を
防ぎます





転倒・転落のリスクが高い方

- 高齢の方
- 筋力やバランスが低下している方
- 認知機能が低下している方
- 薬の影響（眠気・ふらつきなど）がある方
- 過去に転倒したことがある方

「環境」「身体状態」
「行動パターン」などを
総合的にアセスメントしましょう！

転倒・転落が起きる場面（例）

- ベッドからの起き上がり・立ち上がり時
- トイレや洗面所での移動時
- 歩行・移動時
- 検査・処置後の移動時
- 夜間・早朝のトイレ移動時



転倒・転落を防ぐためのポイント

1 アセスメントと情報共有



- 入院時に転倒リスクをアセスメント
- リスクレベルを共有（申し送り）
- リスク表示の活用
（リストバンド・カード・看護計画）

2 環境を整える



- ベッドは低く、ブレーキをロック
- 手すり・コールの位置を確認
- 足元は明るく、物を置かない
- 床の水滴・コード類に注意

3 患者さんへの支援



- 離床時は声かけ・見守りを
- 必要時は歩行補助具を使用
- 履き物はすべりにくいものを
- わかりやすく説明し安心感を

4 チームで取り組む



- 多職種で情報を共有
- 気づきを声に出して伝える
- ヒヤリ・ハットの報告を大切に
- みんなで予防意識を高める

こんな時は特に注意！

- 初めての環境・入院直後
- 手術・検査・処置の後
- トイレで一人になる時
- 眠気・めまいがある時
- 靴やスリッパが合っていない時



患者さん・ご家族への声かけの例





「気づき」と「声かけ」で安心につなげたGood Job！

面会に来院した50代の女性が1階エレベーター前を焦った様子で歩かれていたため、お声をかけたところ、出口が分からず困っていると、お話しを伺いながらエントランスにご案内した。自身が何階にいるかも分からなくなっていた様子

考　察

来院者様の焦った様子に気づき、すぐに声をかけたことで、困っている状況を把握し、安全にエントランスまで案内することができました。「いつもと違う様子」にきづき、声をかける行動は患者様・来院者様の安全を守る大切な行動です。事故やトラブルを未然に防ぐセーフティⅡの視点からも素晴らしいGoodJobです。